

【報道関係者各位】**こどもの貧困への新たな取り組み 民間主導の給付型奨学金発足
～日本全国から選抜された28名の奨学生が、東京フォーラム（3月20日）にて、
自らの使命・役割を発表～**

2017年3月吉日
一般財団法人教育支援グローバル基金
電話 03-5453-8030

1. 趣旨

一般財団法人教育支援グローバル基金（本部＝東京都渋谷区、理事長＝橋本大二郎・元高知県知事）は、共感力ある次世代のグローバル・シティズン（地球市民）の育成をめざす、包括的な人材育成事業「ビヨンドトゥモロー」の一環として、孤児・遺児、単親家庭、貧困家庭など、弱い立場にある若者が進学の際に必要な資金を援助すべく、返済不要の給付型奨学金事業を開始します。

「逆境は優れたリーダーを創る」をミッションとし、2017年度、下記2つのプログラムを開催し、書類選考・面接選考による人物評価による合格者を対象に、1年間の支援を行います。様々な困難を体験しながらも、未来への志を持つ学生たちが、それまでの日常の中では得られなかった体験を得ることにより、視野を大きく広げ、共感する力を育て、それぞれの形で社会に力を添える人材となることが期待されています。財政的支援と、人材育成事業の2本の柱から成る本事業は、深刻な教育格差の課題解決に貢献するだけでなく、今後の日本および世界の未来を担うにふさわしい人材の輩出に寄与する重要な試みとなると考えています。奨学金は、企業や個人からのご寄附を原資としています。

【大学生対象： ジャパン未来スカラシップ・プログラム2017】

本プログラムは、新たに高校を卒業し、社会のために活躍する人材になるべく進学を目指す若者を応援すべく、進学に際する奨学金（年間72万円）及び年間を通じて開催される国内外での人材育成プログラムへの参加の機会を提供します。選考において、親との死別・離別経験者、児童養護施設居住者には優先配慮しています。

【高校生対象： エンデバー2017】

本プログラムは、児童養護施設に暮らす高校生を対象とし、彼らが将来、社会のために活躍する人材になるべく進学を目指す過程を応援すべく、進学準備に際して必要となる受験準備費用のための奨学金（年間上限10万円）及び年間を通じて開催される国内外での人材育成プログラムへの参加の機会を提供します。

上記2つの事業に2017年奨学生として選ばれた28名が、これまでの自分の歩みをふりかえり、今後、他者のため、社会のために何ができるかを考え、描いた自分の未来へのビジョンを、3月20日（月・祝）に行われる「東京フォーラム」の場で発表します。

2. メディアの皆様へのご案内

3月20日（月・祝）に開催する「東京フォーラム」にぜひお越しいただき、ご取材いただきたく、ご案内申し上げます。

3. 東京フォーラム概要

- 日時 2017年3月20日（月・祝）
- 会場 コレド日本橋
- 内容 開会のご挨拶
学生代表スピーチ
参加学生によるプレゼンテーション「自分の未来ビジョン：わたしだからできること」
映像リフレクション
- 主催 一般財団法人教育支援グローバル基金
- 支援 内閣府子供の未来応援国民運動・日本財団未来応援ネットワーク事業 事務センター

4. 一般財団法人教育支援グローバル基金について

一般財団法人教育支援グローバル基金は、共感力ある次世代のグローバル・シティズン（地球市民）の輩出をめざす人材育成事業「ビヨンドトゥモロー」の運営を行っている非営利の財団法人です。「逆境は優れたリーダーを創る」を理念とし、社会経済的に弱い立場に置かれながらも、次世代を担う資質と志を持つ若者たちを対象に、より広い視点、深い共感力をもって社会のことを考えることのできる人材輩出にむけて様々な活動を行ってきました。

理事	橋本 大二郎（理事長） 小林 正忠 佐藤 輝英 坪内 南 本庄 竜介 村瀬 悟	元高知県知事 楽天株式会社 取締役常務執行役員 ビーネクスト ファウンダー&マネージングパートナー 一般財団法人教育支援グローバル基金 事務局長 グリーンコア株式会社 代表取締役 モルガン・ルイス&バッキアス法律事務所 弁護士
評議員	木山 啓子 宮城 治男 山崎 直子	特定非営利活動法人ジェン（JEN）共同代表理事 NPO 法人 ETIC. 代表理事 宇宙飛行士
アドバイザー	阿川 尚之 竹中 平蔵	慶應義塾大学 名誉教授・同志社大学 教授 慶應義塾大学 名誉教授・東洋大学 教授

5. お問い合わせ先

一般財団法人教育支援グローバル基金 (<http://www.beyond-tomorrow.org/>)

住所 〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-5-7 APPLE OHMI ビル 4階 ETIC. 内

電話 03-5453-8030 ファックス 03-6745-9100 電子メール info@beyond-tomorrow.org

【ご参加申し込みについて】

下記情報を、ファックス（03-6745-9100）または電子メール（info@beyond-tomorrow.org）にてご送信ください。電子メールにてご登録受付の確認と当日のご来場の詳細をお送りさせていただきます。

- ① ご氏名
- ② ご所属
- ③ お肩書き
- ④ お電話番号
- ⑤ 電子メールアドレス
- ⑥ ご住所
- ⑦ お持込になる機材
- ⑧ ご参加人数

6. ビヨンドトゥモロー 東京フォーラム 2017 参加学生一覧

（大学生 20名）ビヨンドトゥモロー ジャパン未来スカラーシップ・プログラム 2017



青木里紗 神奈川県立横浜国際高等学校卒業予定

高校3年生の夏、母が自殺。母の死は何よりも辛い経験だったが、今後、その経験を通し、自分自身だけでなく誰かのことを少しでも救いたいと考え、ビヨンドトゥモローに応募することを決意した。プログラムを通じて様々な人たちと出会う中で、自分の経験を隠すことなく共有し、母と過ごした時間や母の死が教えてくれたたくさんのことを、人生の中で活かしていきたい。外国の文化や外交問題に関心があり、タイやマレーシアを訪問し、経済格差や環境問題について学んだ経験から、発展途上国の問題に興味を持つ。将来は、地球規模課題はもちろんのこと、個人個人の悩みの解決につながる手助けをできる人になりたい。



安倍有紀 日本大学法学部経営法学科（日本大学東北高等学校卒業）
東日本大震災後、原発の危険から、家族全員で避難した先で父を亡くし、喪失感の中に高校時代を過ごした。ビヨンドトゥモローの活動に参加したばかりの頃は、周囲が自分より意識が高いように見え、泣いて過ごすばかりだったが、活動の中で初めて自らの被災体験を話し「自分にもできる」と自信がついた。今後は、自分がそうしてもらったように、ビヨンドトゥモローに新しく入ってくる仲間の背中を支えられる、木の根のような存在になりたいと思う。そして、社会にでて、誰かを喜ばせることのできる存在になりたい。



新沙耶花 大阪学芸高等学校卒業予定
幼少期に母と死別、小学生の時から児童養護施設に暮らす。中学生の時に、大学進学を決意し、それ以来、寝る間も惜しんで勉強に打ち込み、努力を続けてきた。頑張ることで、自分のことが少しずつ見えてくると、周りの人たちのことも考えられるようになったと思う。ニュースで貧しい人の映像が流れると心が痛み、少しでも人の役に立ちたいと考えるようになり、将来は、海外の人とつながることのできる仕事に就くことが夢。大学生活を通して、海外ボランティアに参加し、自分の目標を具体的に定めていきたいと願っている。



稲村ほのか 宮城学院高等学校卒業予定
東日本大震災で自宅を失う。学校には被災した人が少なく、自分に帰る家がないことがつらくて、自分だけが取り残されているような気持ちになった。家、思い出、ふるさとをなくしたが、一方で、それをきっかけに出会った仲間、強さ、勇気、弱者を思う心など、失ったものより多くのものを得ることができたと感じている。高校時代、ボリビアに1年間留学し、貧困の現状を目の当たりにし、大きな衝撃を受けた。帰国後に参加したビヨンドトゥモローの活動でニューヨークに行ったことをきっかけに、貧困問題にとりくむことを決意。今後も、出会いと体験を大切にしながら、夢にむかって努力していきたいと考えている。



菅野渉 加藤学園高等学校卒業予定
生後間もなく乳児院に入り、その後、児童養護施設に入所した。なぜ自分は両親と生活できないのかと自問自答した日々もあったが、いつも優しく、時には厳しく接してくれる施設の職員の方々への感謝の気持ちがあるからこそ、自分が頑張ることができるということに気づくことができた。費用面の難しさから、大学進学をあきらめかけたこともあったが、支えてくれた方々への恩返しのためにも、将来、災害時に活躍する救助ロボットの設計や製作に携わるという夢を追うべく、大学進学を決意。今回、ビヨンドトゥモローに参加することで、新しい発見や出会いを経験し、自分の視野を広げることが期待している。



小岩真純 福島大学現代教養コース（岩手県立杜陵高等学校卒業）
幼い頃より父子家庭に暮らし、東日本大震災後、経済的に厳しい家庭の状況に不安を感じる中、母の祖国であるフィリピンを訪問。車の間を細い脚で商売をする子供たちの姿を目の当たりにし、自分自身を奮い立たせ、帰国後、高校を退学し、通信制高校へ転学。毎日アルバイトして大学進学費用を貯め、夜間制の大学に進学した。ビヨンドトゥモローの活動に参加する中で、大きな困難を体験した仲間に出会い、大きな刺激を受けた。以来、自分にとってビヨンドトゥモローは、貧困に苦しんだ過去、家族のことなど、何でも話せる第2のホームのような存在になった。将来は、教育現場に繋がる職業につきたいと考えている。



佐々木琉希 岩手県立大船渡高等学校卒業予定
東日本大震災で父と祖父母を亡くし、自宅も流失。大切な友人も津波で亡くし、多くのものを失った。しかし、残された自分にできることは、亡くなった人の分まで精一杯生きることだと考え、震災前から取り組んでいた野球を震災後も継続し、全国大会にも出場を果たした。将来は、防災に関する仕事に就き、自分が震災で経験したこと、そして防災の大切さを伝えていきたいと考えている。ビヨンドトゥモローに参加することで、多くの人コミュニケーションをはかり、自らの視野を広げ、そして自分の故郷の復興にむけて、日本全国の人の意見をきくことを期待している。



佐藤舞 名古屋市立大学看護学部看護科（岩手県立大船渡高等学校卒業）

東日本大震災の津波で、陸前高田市の自宅を失った。高校2年生の時に初めてビヨンドトゥモローに参加し、初めて自分の震災体験を語り、周囲の人が真剣に自分の話を聴いてくれた時、自分は誰かに話をきいてほしかったということに気がついた。今年は、自分がこれまでの人生で考えたことを仲間に伝え、プログラムに還元していきたいと考えている。将来は、看護師になり、陸前高田のような過疎地域でも人々が十分な医療を受けられるように尽力し、活気のある高田を作るための力になりたい。



鈴木博文 東京都立富士高等学校卒業予定

家庭の事情で高校2年次に児童養護施設に入所。辛い体験だったが、この経験があってこそ、自分にとっての家族の存在の大きさや人の大切さを知ることになったことを誇りに思っている。様々な経験を通じて医療への憧れを持ち、診療放射線技師になることを志し進学を決意。高校3年で初めてビヨンドトゥモローの活動に参加し、大きな刺激を受け、自分のもっと世界を見たい、行動したいと思うようになった。叶えたいこと、やりたいことがたくさんある中、実現に向けて、仲間と共に歩み、努力していきたい。



高橋奈々美 国際基督教大学アーツ・サイエンス学科（St. Georges School in Switzerland 卒業）

高校1年生で初めてビヨンドトゥモローと出会って以来、ビヨンドトゥモローは、迷い挫けそうになる度に励まされる場所であったと感じている。高校時代、フランス、スイスに留学し、世界各国から集まる仲間と交流する中で、グローバルな感性を身に付け、英語・フランス語を磨いた。様々な活動に参加する中で、華やかな肩書や経歴よりも、人に気づかれずとも自らの道を創りだそうと模索する一人ひとりの意志に尊さを感じるようになった。現在は、シリア情勢および戦争孤児の支援に関心を持っており、将来は国際的な支援活動に従事したい。



谷恭輔 京都市立伏見工業高等学校卒業予定

家庭内のトラブルにより、高校在学中に保護され、里親家庭に暮らす。一時保護所に滞在中、そこで暮らす幼い子供たちの世話の手伝いをした際に、「保育士にむいている」と言われた言葉がきっかけとなり、進学して保育士を目指すことを決意。それまで自分の夢というものを持ったことがなかったが、今後、自分で決めて自分で実行できるようになりたいと考えるようになった。将来は、子供たちがのびのびと過ごせるような保育をできる保育士になり、さらに、専門の実力をつけて、人の痛みを理解し、それをプラスに変えていけるようになりたいと願っている。



谷果純 徳島市立高等学校卒業予定

幼少期に両親が離婚、祖母と暮らしてきた。家庭内の様々な問題から、自分の置かれた状況に文句を言っていたこともあったが、高校1年の時、周りを変えることは難しいけれど、自分自身は変えることができることに気づき、強く優しい自分になり、物事を前向きに考えることを決意した。将来は、高校教師になり、人と関わり、人を助ける仕事をすることが夢。ビヨンドトゥモローの活動を通して、視野を広げ、多くを知り、積極的に意見交換に参加し、夢の実現のために必要な力を身につけたいと考えている。特技は阿波踊り。



萩原みらい 群馬県立渋川女子高等学校卒業予定

高校3年次に父が自殺。父の死、父の人生と向き合うことは、今まで見えていなかったことを自分にまっすぐに教えてくれたと思う。そして、誰のことも心から思いやれる自分になれたとも思う。幼い頃から、安全に暮らしたいという理由で公務員を希望していたが、「やりたいことを職業にする」と決め、声楽と音楽教育に携わることを目指すことを決意。母子家庭で厳しい経済状況の中の進学となるため、奨学金を探中でビヨンドトゥモローの活動を知り、自分と同年代の学生たちが、様々な背景を持ち、過去や現在と向き合いながら、自分の役割を探る姿がきらきらとまぶしく見え、自分もその気概に触れたいと考え、プログラムに応募した。



町中大悟 岩手県立黒沢尻北高等学校卒業予定

小学生の時に母を、中学生の時に妹を亡くす。それは人生の中で最もつらい出来事だったが、いつか二人に会った時に、自分の人生を誇らしく語れるような恥じない人生を歩むため、そして、たった13年しか生きることができなかった妹の分まで生きるため、後ろは振り返らずに前を見て歩いていこうと考えている。将来は、地方公務員として、自分が地元の花巻市に助けられているように、市民をサポートできるようになりたい。ビヨンドトゥモローの活動に参加することには不安もあるが、そんな不安に打ち勝ち、ビヨンドトゥモローが家だと思える様に、変わっていきたいと思う。



松藤江巳吏 高知大学人文社会科学部人文社会科学科（高知市立高知商業高等学校卒業）

高校時代、ラオスに学校を贈るというプロジェクトに参加し、ラオスと高知をつなぐ活動に取り組み、世界と日本の懸け橋となる仕事に就きたいと考えるようになった。母子家庭のため、経済的な事情で、進学や課外活動を諦めなければならないことも多かったが、自分で自分のチャンスをつぶすことをやめたい、家庭環境を言い訳にせずキラキラと輝ける人になりたいと、ビヨンドトゥモロー ジャパン 未来スカラシップ・プログラムへの応募を決意。今後、高知を基盤に、世界を視野に働く仕事に就くことを目標に、短期留学を計画している。



宮良耀一 熊本県立南稜高等学校卒業予定

幼少期に両親が離婚、高校在学中に父が他界、祖父と暮らす。父の死の直後に参加したビヨンドトゥモローの活動で、同世代の仲間と話すことによって、亡き父への想いを原動力に変え、ただ悲しんでいた自分を変えることができたと思う。父と交わした最後の言葉となった、「夢を途中で諦めるのではなく、ちゃんと実現させろよ」という言葉に背中を押され、将来、農業の教員になることを志している。そして、世界規模で日本の農業を考えられるようになり、農業を通して日本を支える一人になりたい。



向笠綾華 純心女子高等学校卒業予定

中学生の時から児童養護施設に暮らし、高校在学中に母が他界。高校卒業を節目に児童養護施設を卒業して1人立ちするにあたり経済的な不安を取り除き、また、人材育成プログラムに参加し、他国の文化に触れ、広い視野で世界をみられるようになることを願い、ビヨンドトゥモローに応募を決意。将来は本に関わる仕事に就き、本の魅力を伝える仕事をするのが夢。大学生活では、地元長崎の知らない部分や、日本や世界の文化や歴史を勉強したいと考えている。



森瀬さおり 青森県立青森高等学校卒業予定

両親の離婚後、育ててくれていた母親と死別し、以降、幼い弟や妹たちと共に暮らしている。生活のため、英語教師になるという夢を諦めて地元に残ることを決意し、将来の目標を見失っていた時に初めてビヨンドトゥモローに参加。様々な境遇にある同世代の仲間たちが、悲しい体験を将来の夢のきっかけにしていることにとてつもない刺激を受け、自分も将来、聖母園を設立するという夢を抱いた。今後は、ビヨンドトゥモローという、自分に夢を与えてくれた場所で、自分自身が、他の人が夢をみつけてあげられるきっかけになりたいと考えている。



遊佐紀子 岩手県立宮古高等学校卒業予定

幼少期に母と死別。その悲しみの中で、母は目に見えない存在として自分を見守って応援してくれているから負けてはいけないと頑張ってきた。大学入学後、グラフィックデザイナーになるという夢のために、一年間通った大学を退学しての美大受験を決め、受験費用を捻出するために働きながら受験勉強に取り組んだ。将来は、温もり、愛情や美しさをまっすぐに伝え、人を幸せにできるデザイナーになりたい。そしてビヨンドトゥモローで会う仲間たちと、お互いに前向きに生きていけるような関係を築いていきたい。

(高校生 8名) ビヨンドトゥモロー エンデバー2017 参加者一覧



荒川未菜子 長野県上田高等学校

7歳の時から児童養護施設に暮らす。高校1年生の時からビヨンドトゥモローに参加し、人生の中で最も濃い1年になった。一緒にいられる時間は短くても、普段は話せないような話をできる人たちとの出会いがあり、自分は変わることができたと思う。周りの大人に支えられ、充実した生活を送り、大きく成長させてもらった経験から、将来は、日本だけでなく海外においても、貧困の中にあたり社会的養護を必要とする人々のエンパワーメントに携わりたい。その夢のためにも、大学で国際関係学や社会開発を学ぶことを希望している。



飯田芽生愛 長野県長野西高等学校

幼少時に母を自殺で亡くし、児童養護施設に入所した。その経験があったからこそ、虐待を受けている子供たちや生活に困っている子供たちに寄り添うことができたり、より現実的な問題点や対策を提示できるようになったと思う。在籍高校では国際教養科に所属し、英語で児童養護施設の状況について英語で発表したり、台湾やオーストラリアを訪問し、国際交流活動にも熱心に参加している。将来は、子供たちの「居場所」を創ることが夢。その夢を叶えるためにも、大学で心理学を学びたいと考えている。



佐土平玲菜 宮崎県立本庄高等学校

幼い頃から、弟や妹の面倒をみていた経験から、子供が好きになり、将来は保育士になりたいと思うようになった。高校卒業後は、短大の保育科に進み、保育士の資格をとって、児童養護施設や保育園で働き、子供たちの近くに寄り添って話を聴き、成長を見守ってあげられる存在になりたいと思う。今回、ビヨンドトゥモロー エンデバーを知り、自分の意見をきちんと言えるようになりたい、少しでも変わってみたい、と考え、挑戦することを決めた。1年間のプログラムを通し、心から笑えるような体験ができることを期待している。



滝澤ジェロム 名古屋市立名古屋商業高等学校

小学生の時、突然親と切り離され、混乱し、理解するのが難しい中、児童養護施設に入所した。しかし今は、自分に起きたことを理解し、また、児童養護施設で出会った職員の方々が、子供の目線で話を聴き、自分の意見を吸い上げてくれた姿に憧れ、自分も将来、児童養護施設で働きたいと考えるようになった。年々増加する児童虐待やネグレクトは、なかなか実態が公にならないという問題があり、行政はもっと児童養護の分野に力をいれてほしいと思う。高校卒業後は、大学で社会福祉について学び、社会福祉士や保育士の資格を取得することを目指している。



西田直樹 京都翔英高等学校

家庭の事情で小学4年生から児童養護施設に入所。施設に暮らす中で、施設に暮らす子供の状況について様々な課題を感じ、将来、自分がそれを解決できるようになりたいと考え、政治や行政に関心を持つようになった。ただ漫然と働くのではなく、大変な仕事であっても、人のためにアクションを起こすことのできる仕事をしたいと考えており、大学で法律関係の勉強をしたいと考えている。進学のためにアルバイトと学業の両立に取り組み、夢の実現に近づくべく努力している。



長谷真由子 平塚学園高等学校

中学生の時に最愛の母を亡くし、兄弟たちと共に児童養護施設に入所した。母の死は悲しく辛いものだったが、自分と兄弟を大きく成長させ、また、母が伝えたかったであろう「自分を大切にすること」に気づくことができた。英語が得意だった母に憧れ、将来は通訳者となり、文化や言語を超えて人と人をつなぐ仕事をしたいと考えている。途上国の貧困の中にある子供たちの問題にも関心がある。今回、ビヨンドトゥモローに参加すること、自分と同じような境遇の人と話をすること、そして色々な人と出会うことで自分の世界を広げ、柔軟な考え方ができるようになりたい。



福澤孝晴 東京都立青山高等学校

家庭の経済的な事情で、中学生の時に東南アジアに転居し、学校に通うことのできない環境で2年間を過ごした。進学したいという一心で、単身、日本に帰国し、児童養護施設の保護の下に夜間中学に通い、高校に進学。将来は、理論天文学の研究者となり、未知なる発見を探求すると共に、途上国の教育支援にも携われるようになりたいと考えている。高校1年生の時に初めて参加したビヨンドトゥモローは、自分にとって本当に大きい存在となり、自分の中の核であり続けている。そして今後は、これからビヨンドトゥモローに参加する人たちを支え、この場所の素晴らしさを伝えていきたい。



藤本翔 埼玉県立久喜北陽高等学校

幼少期から暮らす児童養護施設で小学生の時にいじめに遭った経験から、将来、そのような想いをしている子供たちを支えられる仕事をしたいと考えるようになった。いじめの経験があったからこそ、自分はやり返すのではなく、自分でそれを止めたいと思えるようになったと思う。高校卒業後は、大学に進学して教員免許を取得し、児童養護施設の職員になることが夢。社会福祉分野にも興味があり、中学時代は介護ボランティアの活動に取り組んだ。特技は中学時代から続けているサッカー。今回、ビヨンドトゥモローに参加することで、色々な人がいることを知り、その人たちの体験を聴き、共感できたらいいなと思っている。

以上